

## 米国のカリキュラムの国家標準に関する一考察

### A Consideration on the National Standards of School Curriculum in the United States

中 野 和 光

(Kazumitsu Nakano)

第4部 教育科

(1999年9月7日受理)

#### 1 はじめに

1990年, 米国のブッシュ大統領は, 年頭教書で「目標2000」を発表し, 2月には全国知事会がそれを支持した。1994年5月, 第103議会は, 「目標2000」を議決した。教育にかかわる事項は伝統的に州に属した米国において, カリキュラムの国家標準を求めたこの法案は国論を二分する問題となった。有力な教育学の研究者もこの問題で賛否二分に分かれた。この国家標準問題の経緯と概要, そこで求められている学力の内容, 反対意見, について検討して見たい。

#### 2 国家標準の意味

国家標準を設定することに賛成する側の研究者であるラビッチ Diane Ravitch によれば, 標準 (standard) には, 元来 (1) 模範, モデルという意味と (2) 基準, 尺度の意味がある。国家標準については, 次の3つの意味がある。

- (1) 内容標準
- (2) 成績標準
- (3) 学習機会標準<sup>(1)</sup>

ラビッチによれば, 日本, フランス, イギリスは, 国家による内容標準がある。このことによって, これらの国は, 水準と平等を維持している。これに対し, 米国, ドイツ, カナダは州, 地方に内容を任せている。成績標準については, イギリスは国家テストがあり, フランスはバカロレア, ドイツはアビツアがある。これに対し, 米国では, 3分の1の大学はすべての志願者を受け入れ, ごく小数の大学が SAT や ACT に基づいている。多くの学生にとっては大学に入るための試験がない。<sup>(2)</sup>

それでは, 伝統的に米国の学校教育に標準が無かったのかと言うとそうではない。

19世紀のコモンスクールは共通の言語と市民的価値によって社会的統合を促進した。19世紀において標準に影響したのは次のような事柄である。<sup>(3)</sup>

- (1) 類似の教科
- (2) ハイスchoolの卒業, 大学入学の要件
- (3) 進級, 大学入学のためのテスト
- (4) カリキュラムの型の記述
- (5) 教師養成の専門職化

ラビッチによれば, 19世紀は概ね, 内容標準であった。

1890年代に中等教育の教科に関する十人委員会報告, 大学入学資格委員会報告, 1918年に中等教育改造委員会報告, がなされ, 20世紀の米国の中等教育の骨格が形成された。<sup>(4)</sup>

ラビッチによれば, 20世紀の標準は大学入学資格要件によって定義された。<sup>(5)</sup>

1926年には, 学問適性テスト SAT が初めて行われた。多肢選択型テストであった。

1959年には, アメリカ大学テストプログラム ACT が初めて行われた。

1965年, 初等中等教育法は標準テストを義務づけた。1960年代はあらゆる種類の標準テストが批判されるようになった。

1960年代半ばから1975年にかけて, 学問適性テスト SAT の成績が下がり続けた。1975年頃, 大学入学資格要件は1960年代初めに比べて著しく下がった。多くの生徒は学問的トラックから非学問的な一般トラックに移った。生徒がどのようなト

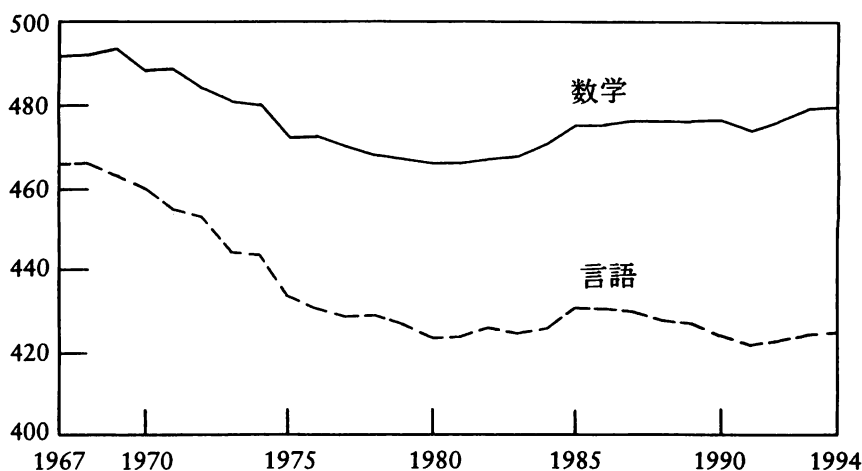
ラックにいるかによって多元的標準があった。1975年、学力問題は国家的問題となった。成績改善の必要性が認識されるようになった。

1983年、『危機に立つ国家』が報告された。教育改革のためのさまざまな動きが起こった。<sup>(6)</sup>

### 3 学力の実態

表1は、学問適性テストの1967年から1994年までの、言語と数学の平均点の変化である。<sup>(7)</sup> (The College Board のデータにもとづく)

表1 学問適性テストの言語と数学の平均点の変化 (1967-1994)



この表を見ると、数学に関しては、1980年代初めを底として、向上し始めている。

イスクールの卒業生のコース選択の型を示す表である。<sup>(8)</sup> (The Condition of Education : 1994, pp.240-244)

表2は、1982年から、1992年までのすべてのハ

表2 ハイスクール卒業生のコース選択の変化 (1982-1992)

選択されたコース	1982	1987	1990	1992
英語4, 社会科3, 理科3, 数学3, 計算機1/2, 外国語2	1.6	12.0	17.3	23.3
英語4, 社会科3, 数学3, 計算機1/2,	2.1	16.3	22.7	29.4
英語4, 社会科3, 理科3, 数学3, 外国語2	8.8	20.9	30.6	36.9
英語4, 社会科3, 理科3, 数学3	12.7	28.6	39.9	46.8
英語4, 社会科3, 理科3, 数学2	29.2	54.6	66.8	72.8

この表を見ると、全体として、学問的教科を選択する学生が増加している。外国語やコンピュー

タを履修する学生が増加していることが分かる。

#### 4 改革の動き

##### (1) 認知科学

グレーザー Robert Glaser によれば、21世紀の学力テストは、単に、点数、ラベル、等級、パーセントを出すだけではなく、知識、技能、認知過程の発達の指標によって、能力の段階の指標を示す方法となり、このようなアセスメントが授業と統合されて行われるようになるだろう。<sup>(9)</sup>

レスニック Lauren Resnick は、すべての子どもたちのための思考を志向したカリキュラムこそが求められており、そのためには、アセスメントの方法が変わらなければならない、と述べている。<sup>(10)</sup>

今日、このような評価は実態評価 (authentic assessment) と呼ばれている。

##### (2) 比較文化分析

スティーブenson H. W. Stevenson は、アメリカの子どもとアジアの子どもを比較して、次のような事を見い出している。

- ①アメリカの子どもは学校でも家庭でも学習時間が短い。
- ②アメリカの教師は通常孤立して働く。アジアの教師は授業改善のために協力する。
- ③アメリカの両親は子どもと子どもの成績に満足している。アジアの両親はそうではない。
- ④アメリカの生徒と両親は学問的成功を能力に帰する。それに対して、アジアの生徒と両親は、努力に帰する。<sup>(11)</sup>

##### (3) 経済的分析

ビショップ John Bishop によれば、アメリカの生徒は学校で頑張ることにほとんど利益を見いだせないが、それは、次の3つの現象の結果である。

- ①労働市場がハイスクールにおける成績や努力に報いることに失敗している。
- ②学校の仲間が学問的努力をばかにする。
- ③優秀な大学の入学がハイスクールの教科の成績の絶対的あるいは外的な標準に基づいていない。<sup>(12)</sup>

##### (4) 教科領域の努力

全国数学教師協会 NCTM は、1989年、数学の標準カリキュラムを発表した。これは、国家標準の動きとは別個に作成されたものである。他の教科も標準カリキュラムの作成に向かって動き始めた。

##### (5) 州レベルの改革

1990年代の州レベルの標準とアセスメントの動きのリーダーシップを取ったのは、カリフォルニア州であった。カリフォルニア州の内容標準の共通の特徴は次のようなものである。

- ①思考、応用、問題解決に重点がおかれている。
- ②現存のトラッキングの代わりに、すべての生徒に高い期待をする。
- ③あらゆる学生が将来の学習の基礎を構築できるように、各教科の知識の総体と認識の方法に焦点を当てること。
- ④瑣末な詳細を教えることから、各領域の主要な観念の強調へ移行すること。<sup>(13)</sup>

ラビッチによればこのような研究の中から次のような合意が生まれたという。<sup>(14)</sup>

- ①生徒が知るべきこと、できるべきことは明確に定義されなければならない。
- ②内容標準は行動、態度、個人的性質ではなく、学習されるべきことが定義されるべきである。
- ③テストは生徒が教えられたことについてテストされていることが分かるように内容標準と関連して行われるべきである。
- ④内容標準は、試験、教科書、教師訓練、教師教育、教師資格付与、教育制度のその他の部分の改革のために用いられるべきである。
- ⑤すべての生徒は、数学、英語、歴史、地理、公民、美術、外国語、の学習を期待されるべきである。何らかの能力別編成は極端な生徒には必要であるが、カリキュラムのトラッキングは除かれるべきである。良い仕事や高等教育を受けるのに必要な知識や技能を学習する機会から生徒が排除されるからである。
- ⑥教師は、生徒が思考し、学んだことを新しい状況に応用し、問題に対する答えにどのように到達したかを説明できる能力を持つように奨励すべきである。
- ⑦両親と教師は学校における成功の鍵として能力より努力の重要性を強調すべきである。
- ⑧テストは態度よりも成績を重視すべきである。
- ⑨テストは多肢選択よりも、学習したことを真に理解したかどうかを決定するように作成されるべきである。
- ⑩公的機関は結果により注意を払い、規制をより少なくすべきである。(すべての生徒が高い成績をとることを目指す限り、学校と教師が自由に自分たちのやり方で物事ができるように)

ラビッチによれば、これらが、国家標準と国家テスト(アセスメント)の動きの指導原則である。

## 5 目指されている学力の具体例

### (1) 数 学<sup>Q5)</sup>

数学の標準カリキュラム案は、全国数学教師評議会の『学校数学のためのカリキュラムと評価の標準』(1989)によって用意された。それによれば、工業社会における教育制度は、今日の経済的要求にできていない。教育に対する新しい要求は、(1)数学的に能力のある労働者、(2)生涯学習、(3)すべての人への機会、(4)教養ある選挙民、である。生徒に対しては、(1)数学を価値づけることを学習すること、(2)自分の数学的能力に自信を持つようになること、(3)数学的に問題を解決できる人になること、(4)数学的にコミュニケーションができるようになること、(5)数学的に推理できるようになること、が要求される。

提案された数学は次の三つの特徴をもっている。

- ①数学を「知っている」ということは、数学を「なす」事である。基本的な概念と手続きがすべての生徒に教えられべきであるが、それは、「それを知っている」というよりは、「なす」を強調して、教えられべきである。
- ②他の教科に应用できる数学的モデル、構造、シミュレーションをすべての生徒に理解させるべきである。
- ③適切な計算機、コンピュータが教えられ、教室の中で利用できるようにすること。

生徒の学習活動については、次の二つの原則が掲げられている。

- ①活動は問題状況から生まれる。
- ②学習は数学への受動的関与だけではなく能動的関与からも生じる

#### (1) 幼稚園－第4学年の標準案

##### 一般目標

- ①児童と数学の関係を説明する。
- ②学習における量的次元の重要性を認識させる。
- ③数学とは何か、についての信念を確立させる。

##### 基本的前提

- ①カリキュラムは概念を志向すべきである。
- ②カリキュラムは児童に数学をなすことに積

極的に関与させるべきである。

- ③カリキュラムは児童の数学的思考力、推理力の発達を強調すべきである。
- ④カリキュラムは数学の応用を強調すべきである。
- ⑤カリキュラムは広範囲な内容を含むべきである。
- ⑥カリキュラムは電卓とコンピュータの利用を受け入れるべきである。

##### 内容標準

- 1 問題解決としての数学
- 2 コミュニケーションとしての数学
- 3 推理としての数学
- 4 数学的結合
- 5 見積もり
- 6 数の感覚と計算
- 7 全体数の概念
- 8 全体数の計算
- 9 幾何と空間の感覚
- 10 測 定
- 11 統計と確率
- 12 分数と小数
- 13 型と関係

第5学年－第8学年、第9学年－第12学年は省略する。

##### 評価標準

評価については、一般的な評価、生徒評価、プログラム評価の3つについて提案されている。

より注意が払われるようになったことは次のことである。

- ◆生徒が知っていること及び数学についてどのように考えているかについて評価する。
- ◆評価を授業の中心的部分とする。
- ◆広範囲な数学の課題に焦点を当て、数学についての全体的な見方をする。
- ◆多くの数学的な考えの応用を要求するような問題状況を作る。
- ◆記述、口頭、演示、を含む多元的な評価技術を用いる。
- ◆電卓、コンピュータ、操作具を評価において用いる。
- ◆学習結果、カリキュラム、授業についての体系的な情報収集によってプログラムを評価する。
- ◆標準学力テストは一つの指標としてのみ用いる。

**(2) 理 科 <sup>⑥)</sup>**

1996年に発表された、理科の標準カリキュラムを例にとってどのような学力が具体的に目指されているかを検討して見よう。

理科の内容標準は次の8つのカテゴリーから成っている。

- ①科学の統一的概念と過程
- ②探究としての科学
- ③物理学
- ④生命科学
- ⑤地球宇宙科学
- ⑥科学と工学
- ⑦個人的社会的視点における科学
- ⑧科学の歴史と本質

これらの8つのカテゴリーについて、幼稚園から第12学年までの内容標準が記述されている。

内容選択の基準は次の3つである。

- ①科学の領域に対する義務である。物理、生命、地球、宇宙科学の標準の教材は理科教育にとって中心的であり、正確でなければならない。
- ②生徒の発達と学習能力を適切に反映した内容標準を作成する義務である。
- ③内容標準を実施しなければならない人々、カリキュラム作成者、指導主事、教師、その他の学校関係者に役立つ形で標準を提示する義務である。

この内容標準でより重点をおかれなくなった事項とより重点をおかれるようになった事項は次の通りである。

より重点をおかれなくなった事項

- ①科学的事実と情報を知ること
- ②学問（物理、生物、地学）をそれ自身のために学習すること
- ③科学的知識と科学的過程を分けること
- ④多くの科学の主題を学ぶこと
- ⑤探究を一組の過程として実施すること

より重点をおかれるようになった事項

- ①科学的概念を理解し、探究能力を育てること
- ②個人的社会的視点、科学の歴史と本質の中における探究、技術、科学の文脈の中で学問を学習すること
- ③科学の内容のすべての側面を統合すること
- ④いくつかの基本的な科学的概念を学習する

こと

- ⑤探究を授業のストラテジーの能力、学習されるべき理念として実施すること

コリンズ Angelo Collins は、この理科の標準カリキュラムの特徴を次のように説明している。

- (1)すべての生徒に科学を理解させようとしていることである。「すべて」と「理解」に力点がおかれている。
- (2)内容、授業、アセスメントを一つの文書に含めたことである。
- (3)それが科学の内容であることである。カリキュラムは内容が教えられる順序とやり方と理解され、カリキュラムと内容が区別されている。その内容は伝統的な理科の内容を含みながら、より広く定義されている。
- (4)プログラムとシステムのための標準も含んでいることである。
- (5)多元的なやり方で全国的な検討が行われていることである。ゲラ刷りの段階で手紙による修正意見を求めたり、電話で意見を求めたり、個人や団体の討論を求めたりなどである。

**(3) 社 会**

地 理 <sup>⑦)</sup>

地理の国家標準は『生活のための地理』（1994）によって用意されている。

この書物は、地理学的に教養ある人間を形成することを目指している。地理学的に教養ある人間とは、(1)物事の空間の中の配置が解り、(2)人々、場所、環境の間の関係が解り、(3)地理学的技能を用い、(4)空間的生態学的視点を生活状況に応用する人である。具体的には、次の18の事を知っており、理解している人である。

- 1 地図やその他の地理学的表象、道具、技術の用い方
- 2 人々、場所、空間についてのメンタルマップの用い方
- 3 人々、場所、環境の空間的組織についての分析
- 4 場所の物理的人間的特徴
- 5 人々が地域を創造すること
- 6 人々の場所や地域の認識に文化や経験がどのように影響しているか
- 7 地球表面の型を形成する物理的過程
- 8 生態系の特徴と空間的分布
- 9 人口の特徴、分布、移動
- 10 文化的モザイクの特徴、分布、複雑さ

- 11 経済的相互依存の型とネットワーク
- 12 移民の過程, 型, 機能
- 13 人々間の協力と葛藤の力がどのように地表の分割と管理に影響しているか
- 14 人間の行為がどのように物理的環境を修正しているか
- 15 自然の体系がいかに人間の制度に影響しているか
- 16 資源の意味, 効用, 分布, 重要性の変化
- 17 過去の解釈に地理学を応用する方法
- 18 現在の解釈と未来の計画に地理学を応用する方法

これらの18の項目について, この書物は, 幼稚園—第4学年, 第5—8学年, 第9—12学年のそれぞれの段階終了後に習得しておくべき地理学的知識と技能について記述している。

#### 歴 史 <sup>(88)</sup>

歴史の国家標準は『歴史のための国家標準』(基礎版)(1996)によって用意されている。『合衆国史』『世界史』は別に用意されている。ここでは基礎版にもとづいてその概略を説明する。

歴史的思考の標準は, 1 年代記的思考, 2 歴史的理解, 3 歴史的分析と解釈, 4 歴史的研究能力, 5 歴史的問題分析と意志決定, によって構成される。

幼稚園—第4学年では, トピックの学習とこれらの5つが組み合わされて, 次のように標準が決定されている。

トピック1 今と昔の家族と地域社会の共同生活

標準1: 今と少し昔の家族生活; 昔のいろいろな場所における家族生活

標準2: 児童の地域社会の歴史と昔の北アメリカの地域社会がどのように変化したか。

トピック2 生徒自身の州あるいは地域

標準3: 彼らの州の歴史を作った人々, 出来事, 問題, 理念

トピック3 合衆国史: 文化的, 経済的, 政治的遺産に貢献した民主的原則と価値と人々

標準4: 民主的価値の由来, それらがどのように人々, 出来事, 象徴によって例示されているか

標準5: 現在と昔の合衆国の人々の大きな集団のさまざまな運動の原因と性格

標準6: 私たちの国家遺産の形成に役立った地域的伝承と文化的貢献

トピック4 世界中の多くの文化をもつ人々の歴史

標準7: アフリカ, アメリカ, アジア, ヨーロッパのさまざまな社会の属性と歴史的発展

標準8: 科学と工学における主要な発展, その社会的経済的影響, それらに責任のある科学者と発明者

第5学年—第12学年の合衆国史と世界史の標準は次のようなものである。

合衆国史は, 10の時代区分がなされている。それぞれの時代に応じて, 内容標準が設定されている。

世界史は, 9の時代区分がなされている。それぞれの時代に応じて, 内容標準が設定されている。

第12学年修了後は, 生徒は合衆国史と世界史について包括的に理解するようになっている。

政策上考慮されたことは, 次のことである。

すべての生徒に機会を保障すること。

十分な授業時間を用意すること。

州や地方によって修正可能なようにすること。

#### 公 民 (Civics and Government) <sup>(89)</sup>

公民の領域の国家標準は1994年に用意された。それによれば, 公民の目的は, アメリカ法政治民主主義の基本的価値と原則に関与する有能な市民による政治生活への教養ある責任ある参加である。このような参加は, 知識と知的な参加技能を必要とする。このような意味で, 生徒のための標準は内容標準と知的技能と参加技能からなる。知的技能は, 内容と結び付いて, 問題を批判的に見たり, ある立場をとったりすることである。参加技能は, 政治生活に参加することに必要とされる技能である。この技能は, 政治や政府をモニターしたり, 影響を与えたりすることによって育てられる。

内容標準は, 主要な問いと関連する問いにもとづく, 定義という形で定められている。

主要な問いは次のようなものである。

幼稚園—第4学年

- 1 政府とは何か。それは何をすべきか。
- 2 アメリカ民主主義の基本的価値と原則は何か。
- 3 憲法はどのようにアメリカ民主主義の目的, 価値, 原則を統治のし方に具体化しているか。

- 4 合衆国と他の国及び世界の出来事との関係は何か。
- 5 アメリカ民主主義における市民の役割は何か。

#### 第5－8学年

- 1 市民生活、政治、統治とは何か。
- 2 アメリカ政治制度の基礎は何か。
- 3 憲法はどのようにアメリカ民主主義の目的、価値、原則を統治のし方に具体化しているか。
- 4 合衆国と他の国及び世界の出来事との関係は何か。
- 5 アメリカ民主主義における市民の役割は何か。

#### 第9－12学年

- 1 市民生活、政治、統治とは何か。
- 2 アメリカ政治制度の基礎は何か。
- 3 憲法はどのようにアメリカ民主主義の目的、価値、原則を統治のし方に具体化しているか。
- 4 合衆国と他の国及び世界の出来事との関係は何か。
- 5 アメリカ民主主義における市民の役割は何か。

このように、主要な問いに関しては、幼稚園から第12学年までほとんど変わらない。内容に関する定義が上の段階になるほど、増えまた高度になっている。

知的技能と参加技能については書かれていない。

#### (4) 美術<sup>20)</sup>

美術教育の国家標準は、『美術教育の国家標準』(1994)によって用意された。

それによれば、美術教育の国家標準は、美術教育の質と説明責任において貢献する。それは、「生徒が知るべきこと及びできるべきこと」である。それは、美術教育の各分野の鍵である。相関と統合の鍵である。文化的多様性を具体的なものとし、適切な技術に焦点を当て、生徒の評価を準備し、単に見せるだけではなく、実践、反省の時間を用意する。

具体的には、この書物は、舞踊、音楽、演劇、視覚芸術の4つの分野の内容標準と達成標準を設定している。

中等教育修了後に、生徒が達成していることとして、この書物を次のことを要求している。

◇生徒は4つの分野の基礎的水準においてコミュ

ニケーションできる。

◇生徒は少なくとも一つの分野において十分にコミュニケーションができる。

◇生徒は美術作品の基本的な分析とその説明ができる。

◇生徒は多様な文化と歴史的時期の代表的な美術作品についてよく知っている。

◇生徒はさまざまなタイプの美術の知識と技能を分野内においてあるいは分野を越えて関連づけることができる。

幼稚園から第4学年までの内容標準は次の通りである。それぞれの内容標準の後には達成標準が記述されている。

#### 舞 踊

- 1 舞踊の基本的動きと技能を知って、演じる。
- 2 舞踊の原則、過程、構造を理解する。
- 3 舞踊は意味を創造し伝達する一つの方法であることを理解する。
- 4 舞踊において批判的創造的思考技能を応用し演じることができる。
- 5 多様な文化と歴史的時期における舞踊を演じ、理解することができる。
- 6 舞踊と健康な生活との関係を関連づけることができる。
- 7 舞踊と他の分野との関係を関連づけることができる。

#### 音 楽

- 1 音楽の多様なレパートリーにおいて一人で、あるいは他の子どもたちと一緒に歌う。
- 2 音楽の多様なレパートリーにおいて一人で、あるいは他の子どもたちと一緒に楽器を弾く。
- 3 即興でメロディを弾いたり、変奏曲を弾いたり、伴奏する。
- 4 特別のガイドラインのもとで、作曲したり、編曲する。
- 5 楽譜を読んだり、楽譜に記述できる。
- 6 音楽を聴いたり、分析したり、記述する。
- 7 音楽や音楽の演奏を評価する。
- 8 音楽と他の分野及び他の学問との関係を理解する。
- 9 歴史と文化との関係において音楽を理解する。

#### 演 劇

- 1 個人的経験や、伝承、創造、文学、歴史にもとづいて、即興で台本を書く。

- 2 即興で劇の中の役を演じる。
- 3 学級劇の舞台を設計する。
- 4 学級劇の計画を監督する。
- 5 学級劇のための情報収集をする。
- 6 演劇と他の劇のメディア（映画、テレビ、電氣的メディアのような）とを記述によって、比較し、関連づける。
- 7 学級劇、演劇、映画、テレビ、電氣的メディアの作品の中から、個人的好みを分析し説明し、意味を構築する。
- 8 演劇、映画、テレビ、電氣的メディアの日常生活の中での役割を認識し文脈を理解する。

#### 視覚芸術

- 1 メディア、技術、過程を理解し、応用する。
- 2 構造と機能についての知識を利用する。
- 3 主題、象徴、観念の範囲を選択し、評価する。
- 4 歴史や文化の中で視覚芸術を理解する。
- 5 自他の作品の特徴と長所を反省し評価する。
- 6 視覚芸術と他の分野を関連づける。

第5学年から第8学年、第9学年から第12学年については省略する。

### 7 国家標準に対する反対意見

国家標準は合衆国の国論を二分する議論になっている。

ミラー Ron Miller は、教育の自由を求める立場から、次のように反対意見を整理している。<sup>21)</sup>

#### 教育学的反対意見

政治家、企業経営者、官僚は、子供の発達、教育学をほとんど理解していない。

国家標準や国家の教育目標を求める議論の中では、教育における学習者の積極的役割は全く認識されていない。

アカウントビリティに対する残酷な要求によって、革新的な、生徒中心的な、手作りの、総合的な、共同的な、といった学習方法の可能性が破壊されている。

国家標準は、多くの点で、世界について学習されるべきことの生命なき抽象である「カリキュラム」を大切にしている。

急速に情報が拡散する時代において、生徒が将来必要とする知識をすべて包括する単独のカリキュラムはあり得ない。さらに、今日知られていること、重要であると思われること、

10-20年の間に時代遅れのものになる可能性が大である。

権威者が学習されなければならないことと時を述べるとき、不当な圧力が教師だけではなく子どもたちかけられる。

学校と教師は、標準を充たすと言う要求によって要求に応えられない多くの子どもたちにラベルをはり、孤立させる圧力をかけられる。

標準に基づくアセスメントは、極端に狭隘な学習の様式と教育目標を反映している。

#### 政治的文化的反対意見

国家目標と国家標準に対する要求は本質的に、「残酷な不公正な文化的展望」(David Purpel)を守るための陽動作戦、政治の手品である。

近代経済システムにおいては、教育的達成は経済的安全を保障しない。教育的達成と経済的成功を結び付けることは偽りの約束である。

画一的標準は、生徒は学業成績に平等に用意されていると言うことを前提にしている。しかし、そうではない。

国家標準を求める議論は、いかなる分野の知識、いかなる種類の学習、教育に対するいかなる道徳的展望がすべてのコミュニティ、すべての家族、すべての子どもたちに課されなければならないと言うことを専断的に高圧的に決定している。

公的な国家標準とカリキュラムはアメリカ社会の単一文化的展望を確立し、真の多文化的民主主義の可能性を強力に閉ざす。

国家目標と国家標準は教育者や両親や地域社会の教育目標ではなく、強力なエリートの予定案を確立する。

基本的に、国家標準とカリキュラムの問題は、いかなる種類の政治的文化を合衆国に確立することを私たちが望んでいるかと言うことを考えさせる。一公的な討論と妥協が自由に行われる雰囲気か、それとも、利害集団が自分たちの見解を強制するために学校の管理を目指して戦う雰囲気か。

#### 憲法上の反対意見

合衆国憲法は明確に連邦政府が教育の形態と内容を統制することを合法化していない。

政治権力が中央集権化されればされるほど、それは個人や地域社会の要求から遠くなり応えなくなると言うことをこの国の創立者たちの多くは認識していた。



法治国家においては、政府の政策は、自由な、率直な、公的な会話と思考の交換を反映しなければならない。政府は、これらの思考の形態と内容を形成しようと試みてはならない。

#### 哲学的道徳的反対意見

教育は私たちの最高最善の人間の可能性を引き出すことに関わるものであり、粗野な経済的利害の奴隷であってはならない。

国家標準を求める議論は若者を人間としてではなく対象として扱っている。生徒を「国家資源」「文化資本」として定義している。

われわれは、明確に持続し得る社会的経済的実践を要求する地球規模の環境の危機に直面している。しかし、生産性と競争力のための容赦ない圧力は生態学的破滅に向かう、生物圏の搾取に私たちをさらに駆り立てることができるだけである。

文化的知的生活は絶対的に強制から自由でなければならない。なぜなら、それらは、人間精神内部深くの創造的活動から生まれるからである。立法、規制、党派政治、多数派の支配は、より皮相な利害を反映している。

これに対して、国家標準推進の中心にいるラビッチは、国家標準に有利な事例を次のように整理している。<sup>22)</sup>

- 1 教えられる内容、いかなる種類の成績が期待されているかが明確に定義されることによって生徒の成績が向上する。
- 2 標準（国家、州、地方）は機会の平等のために必要である。
- 3 国家標準は価値ある調整機能を用意する。
- 4 州によって異なった標準をもつ理由はない。

とりわけ、十分に発達した国際標準が既にある数学、理科においては。

5 標準とアセスメントは生徒と両親に正確な情報を提供することによって消費者保護を行う。

6 標準とアセスメントは生徒、両親、教師、雇用者、大学に重要な信号機の役割を果たす

#### 8 おわりに

米国の国家標準において求められている学力を検討すると、カリフォルニア州の内容標準の特徴と同じように、各教科の知識の総体と認識の方法を、各領域の主要な観念を中心として、探究過程を重視しながら、すべての生徒に教えようとしている。

さまざまな立場からの強い反対にもかかわらず、国家標準にもとづいたカリキュラムの構成と実践の研究が現在進んでいる。例えば、グラッソーン Allan A. Glatthorn らは、成績評価と標準にもとづくカリキュラム構成の方法を提案している。<sup>23)</sup> その特徴は、カリキュラムと授業と標準にもとづく評価 (Assessment) を、システム的にとらえようとしている。その意味で、国家標準にもとづくカリキュラム改革は、テストのための授業 (Measurement-Driven Instruction) の方向性を持っている。

国家標準は、今回取り上げたもののほかに、現在、英語<sup>24)</sup>、健康<sup>25)</sup>、体育<sup>26)</sup>、経済、外国語、技術、行動学習、ライフスキル<sup>27)</sup>がある。紙数の都合で今回は取り上げることができなかった。これらの教科も含めた、学年毎の教科内容の水準の検討が今後の課題である。

## 9 引用文献

- (1) Ravitch, Diane, National Standards in American Education, Brookings Institution Press, 1995, pp.12-13.
- (2) Ibid, pp.14-18.
- (3) Ibid, pp.34.
- (4) Ibid, pp.36-43.
- (5) Ibid, p.44.
- (6) 以上, Ibid, pp.44-58.
- (7) Ibid, p.65.
- (8) Ibid, p.96.
- (9) Ibid, p.102.
- (10) Ibid, p.105.
- (11) Ibid, pp.108-113.
- (12) Ibid, p.116.
- (13) Ibid, p.131.
- (14) Ibid, pp.133-134.
- (15) Curriculum and Evaluation Standards for School Mathematics, National Council of Teachers of Mathematics. 1989.
- (16) National Science Standards, National Academy Press, 1995.
- (17) Geography for Life, National Geographic Research and Exploration, 1994.
- (18) National Standard for History ; Basic Edition, National Center for History in the School, 1996.
- (19) National Standards for Civic and Government, Center for Civic Education, 1994.
- (20) National Standards for Arts Education, Music Educators National Conference, 1994.
- (21) Miller, Ron, Introduction, in Ron Miller ed., Educational Freedom for a Democratic Society, Resource Center for Redesigning Education, 1995, pp.1-27.
- (22) Ravitch, Diane, op. cited, pp.25-27.
- (23) Glatthorn, Allan A., Performance Assessment and Standards-Based Curricula : The Achievement Cycle, Eye on Education, 1998.
- (24) National Council of Teachers of English, Standards for the English Language Arts, National Council of Teachers of English, 1996.
- (25) National Health Education Standards-Achieving Health Literacy, Association for the Advancement of Health Education, American School Health Association and American Public Health Association, 1995.
- (26) Moving into the Future-National Standards for Physical Education, The National Association for Sport and Physical Education, 1995.
- (27) Kendall, John S. and Robert J. Marzano, Content Knowledge, 2nd ed., McREL and ASCD, 1997. に, 全教科の国家標準が収録されている。